

2012年に向けて新たな全盛期を！ 各地域で8.15記念の集い

8日に総聯県本部執行委員会第22期第2次拡大会議が行われました。会議では3月から行われた「90日運動」とともに東日本大震災が福島県の同胞社会にもたらした影響、原発事故に伴う新潟ハッキョのと合同教育などが総括されました。そして、来る2012年の金日成主席生誕 100周年を福島県の同胞社会における新たな全盛期の土台を築きあげた成果をもって迎えるための課題が提起されました。

- ① 総聯と各団体の支部、分会をより一層活性化させる。
 - ② 新たな全盛期の土台を築くための3大主要分野に力を入れる。
 ・民族教育 ・若い世代を主役に ・商工会強化
 - ③ 同胞たちの幸せと明るい未来を目指し同胞社会を盛り上げよう。
 - ④ 祖国支援、祖国統一、対外活動で前進をもたらす。
- 今後支部や団体ごとにこの課題を具体化していくことになります。
 福島トンポトンネの新たな全盛期に向けてみんなで頑張りましょう！

中通地域では今年の8.15の集いを4日に屋内で行いました。例年より人数は少なかったものの参加者たちは夏の夜を満喫したようでした。なぜか一番盛り上がった支部重鎮たちの中締め、なぜか会場が一つになった「少年団行進曲」の大合唱(わかる人にはわかるはず)、参加者数より賞品が多いビンゴゲームなど？マークだらけでしたがみなさんとても楽しんでいました。

会津地域では6日に支部で恒例の焼肉パーティーを行いました。ハギハッキョに参加した子供たちも大勢いて、ペットボトルボウリングで大いに盛り上がりました。

テレビ放映のお知らせ

8月14日(日)朝5時～6時に「こころの旅—私にとっての3.11 フクシマをあるいて」が放映されます。

作家・徐京植さんが原発事故後、初めて訪ねた福島。そこで出会った人々や、かつて破局を体験した人類が残した警句から、人間の何が脅かされているかを考える。

在日朝鮮人の作家・徐京植(ソキョンシク)さんは、原発事故以降、韓国の知人に避難して来るよう言われたが、動かなかった。なぜ、日本にとどまったのか？ 徐さんは、その理由を探して福島を訪ねた。耕作禁止の田で働く人、周囲が自主避難するなかで動こうとしなかった人、朝鮮学校の子どもの出会いから、アウシュビッツや広島破局を見た人の警句を想起し、原発事故が社会の何をさらけ出し人間の何が問われているか考える。(番組ホームページより)

徐京植さんは民主化運動で投獄され獄中闘争を続けた徐勝、徐俊植さん兄弟の末弟です。早起きしてぜひご覧ください。

続く全国からの支援

・5日～7日に行われたコマチュック大会に際し、大阪、和歌山のオモニたちがオリジナルカンパッチを販売しその利益で被災地から参加する選手たちの昼食代を負担してくださいました。

余りにも被害が大きく何ができるかわからない中で同胞同士、同じコマチュック選手を育てている者として、訪ねてきたチョッカたちにご飯をたべさせてやりたいと「コマチュックチョッカプロジェクト」活動を繰り広げて多くの方々の賛同を得たそうです。(詳しくはトンチョ蹴球部のホームページをご覧ください)

ハッキョ除染作業に役立ててほしいと支援金も届けてくださいました。

*参加費、滞在費はコマチュック大会事務局が負担してくださいました。

・先日、講演に訪れた「モンシュシュ」の金美花社長が福島の実状を目の当たりにしてハッキョに支援金を送ってくださいました。

・ニョメンとオモニ会が行っている「福島ハッキョ応援キャンペーン」にも全国から続々と注文が来ています。

県内の方もご協力ください。

「フェイスパックセット」(5枚入り)500円

「キムチの素セット」(4種入り)1,500円

今週の新報

8月8日の朝鮮新報「朝鮮語版」と「日本語版」に7月25日～27日まで行われた福島・新潟合同少年団キャンプの様子が紹介されています。

特に日本語版7ページには写真が満載です。

来週の「週刊トンネ」はお休みです。